

「学びの発表を終えて」

2019年12月7日、初等部で「学びの発表会」が行われました。「勉強報告会」から名称を変えて2回目の発表会となります。初等部では、より子どもの一人一人の思いや得意、好みを活かせるような発表会にしようと、発表会のあり方を模索して来ました。

今回は、「土と育つ子どもたち」（畑の発表会）として、各学年が畑で育てる作物をテーマにしました。そして、発表方法をステージ発表だけに限定せず、畑や作物を育てることから得た学びを劇、ポスターなど様々な形式の中から児童が選び、表現することに挑戦しました。

それを受けて、今年度の発表会では発表形式だけでなく、子どもの学び方にも着目しました。調べ、発表するテーマ設定も子どもに預けること、子ども自身が答えのないような問いに向き合い、自分なりに答えを出すことを教師が支え、児童の主体性が発揮されるような学び方で発表会に向けて授業を進めていくことにしました。結果、各学年、「カタツムリ」「水」「自由学園初等部」などのテーマが設定されました。一見するとバラバラのテーマですが、「子どもの声に寄り添った」という共通点でテーマ設定がなされています。

学び方については、「調べたことが分かった」ということだけに満足せず、調べ方・問いの立て方・表現の仕方など、探究の過程の中で、小学校における教科にとらわれない、汎用的な学び方を子ども達が学べるよう意識してカリキュラムを組み立て、準備してきました。

発表会当日は、各学年のそれぞれの場所に分かれて発表を行いました。もちろん、発表は、劇、ポスター、紙芝居、絵など、バラバラです。できる限り子どもの「これがしたい」に教師が寄り添うこと、発達段階に合った発表方法にすることを大切にしました。当日は、いきいきと話す子どもの姿を見ることができたように思います。やはり、子どもの「やりたい」は主体性の原動力となっていることに改めて気付かされました。お客様との質疑応答も子ども達にとって学習でした。質問されることで発表の足りない点に気が付いたり、何度も発表することで自信がついたり。「もう10回は発表できたよ！」「たくさん話してつかれちゃった。」「先生、ここ、よく聞かれるから新しい紙をはりたい！」など、発表会でも子どもの学びは続いていました。

「学びの発表会」終了後の振り返りも大切です。学びを振り返り、次の学びに活かすことも学び方の一部だからです。振り返りでは、「発表が好きになった」「質問に答えられなくて悔しい」「前より文を書けるようになった」などの声が聞かれました。たくさんの学び方を学んだ子ども達が、これを武器に、これからぶつかるであろう困難な問題に立ち向かっていく姿を期待しています。一方、振り返りの言葉は、教師へ向けた声でもあります。初等部では昨年度から、成田喜一郎先生（自由学園副学園長）から探究的な学びのためのカリキュラム作りの方法について学んだり、公立私立問わず、探究的な学びを行っている学校を訪問したりと、子どもと同じように教師も発表会へ向けて学び、準備してきました。来年度以降も教師、子ども共に学び続け、子どもが中心におかれたよりよい発表会を目指し続けます。これからも見守っていただけると幸いです。

自由学園初等部研修グループ 浅川曜子 真中昭典 田嶋健人